

会 議 経 過 報 告

名 称 厚木愛甲環境施設組合事業懇話会
日 時 平成17年2月21日(月曜日)午前10時~午前11時30分まで
場 所 ルリエ本厚木ビル10階 厚木愛甲環境施設組合会議室
出席者 【懇話会構成員】10名
【市町村担当】
厚木市 3名、愛川町 1名、清川村 1名
事務局 5名

【会議概要】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事

(1) ごみ組成分析調査の結果について【資料1】

資料1により、組成分析調査の結果について説明。

(2) ごみ組成分析調査の結果に対する意見について

【質疑】

委 員 長) 質疑に入る前に、ここで、方向性を出していただけるのか、今回の意見がどのように反映されるのか、確認したい。

事 務 局) 前回の会議の際にご説明させていただいたとおり、諮問機関としての位置づけではないので、特別の拘束力があるわけではないが、住民の皆様の率直な声ということで、減量化・資源化施策として各市町村で取り入れることが出来るかどうか検討し、組合としては、今後策定する、ごみ処理広域化実施計画や廃棄物循環型社会基盤施設整備事業計画(CRT計画)等の中で参考にさせていただく。

委 員 員) 先日事前に資料をいただいているが、今日の資料はそれと同じものようだが、事前に配布したものは、当日持参するのが当たり前だと思う。そういった意味では、当日の資料として改めて配布する必要はないのではないかと。そうした一つ一つの積み上げが、紙ごみの減量化につながると思う。

事 務 局) 次回以降は、事前に配布したものは再度配布せず、忘れた人のために、予備を用意することとしたい。

委 員 員) 資料の中に、一般の人には分かりづらい言葉がある。例えば、厨芥類という言葉は一般的にはあまり使わない。もし、生ごみ、というような言い方で、大差ない内容を示しているのならば、そういう分かりやすい言葉を使って欲しい。

厚 木 市) 厚生省の課長通達の中で、組成分析をやる際の6分別が示されており、その中で使用されている言葉なので、それを用いているが、確かに分かりにくいかもしれない。今後は、注釈をつけるなどしたほうがいい。

委 員 員) 分析のやり方はよく分かったが、そもそも組成分析調査は何のために行ったのか。施設の規模を決めるためとか、そういうことか。また、なぜ、乾ベースの調査なのか、容量ベースの調査とかはしないのか。

事 務 局) 今後の減量化・資源化施策を検討するうえでの基礎資料とするために調査を行

った。それから、通常は、先ほども話に出た厚生省の課長通達にのっとり、乾ベースで行うことになっている。ごくまれに、湿ベースで行っている場合もあるが、容量というのは状態によって変わるので、容量ベースというのは見かけない。

委員) 資源化・減量化については、各市町村の施策ということではなかったか。組合として目標を設定しているのはなぜか。

事務局) 確かに施策としては市町村の対応だが、広域化を進める上では、施設規模等を考える上でも、全体の目標を設定して、それに向かって取り組む必要がある。市町村は、その目標を達成できるよう、施策を考える、という役割分担になる。

委員) 厚木市の方でも、一般廃棄物処理基本計画を策定中で、説明会を行っていたが、それと、組合の目標の整合は取れているのか。

厚木市) 組合の目標の設定年次が平成22年、厚木市の目標は平成25年と違いがあるが、平成22年段階での組合の目標数値を踏まえて25年の目標を設定しているので、整合は図られている。

委員) 説明の中では、今回の結果は基本計画時(平成13年度)とほぼ同様な傾向といわれているが、施設規模等へも影響があるのだとしたら、重要に取り上げていただきたい。施設整備の際の投資金額を適正にして欲しい。

委員) 目標達成についての具体的な方法はどのようなものがあるか。モデル地区の設定などはしているのか。住民の中に浸透させ、意識を変えるには、やってもらうのが一番だと思う。チラシを配布しているだけでは変わらないのではないか。

厚木市) 厚木市は、紙ごみゼロ運動を行い、紙ごみが2割程度削減できている。古新聞の回収のような袋を配布している。

愛川町) 資源化倉庫という資源物の回収倉庫が現在81箇所あり、地元の自治会や子ども会に管理をお願いしている。これにより、年間1000トン程度は回収できている。しかし、それでも可燃ごみ中に紙ごみが多いので、通常のごみ集積所で紙ごみを回収する方法をモデル地区として来年度から実施する予定となっている。また、剪定枝については、公園などの公共施設から出たものについては、町の焼却施設に持ち込むのではなく、民間に処理をお願いしている。

清川村) 平成15年度から、ミックスペーパーの回収を開始している。それにより、紙ごみは減りつつあるが、まだまだ可燃ごみに入っているので、来年度以降に、資源ごみを休日でも回収する場所を設置して、持ってきてもらうことを検討している。また、生ごみには水分が多いため、水切り器を各戸に配布し、生ごみを出す際に、十分に水を切ってもらっている。

委員) 確かに、紙は重いので、資源化倉庫まで持っていくのは、大変。特にお年寄りしかいないところなどは、なかなか難しく、分かっているけども倉庫まで持っていくのがごみで出してしまうことがある。集積所で回収してもらえれば方式になると大変助かるので、是非、早くお願いしたい。とにかく、紙、特に「その他紙」がたくさんごみに出ている。自分は「押しかけ講座」と称して、色々な集まりの際にみんなに話しをしている。一人一人の心がけが大事なので、意識啓発が大事。小さいことが、最終的には施設規模に影響を与えることになり、そういう意味では影響が大きいことなので、意識啓発を強く推し進める必要がある。

委員) 家庭でのごみの管理はどうしても主婦層が中心。そういう意味では、主婦層が中心となって意識改革をしないとイケない。行政のPRも必要だが、住民が主体

的に活動する必要もある。一人でも多く周囲の人の意識を変えていくしかない。住民が受身では解決しない。

委員) 資源回収倉庫が活用されていないような印象になるといけないので、お話をするが、自分のところは、現在、土日回収日としている。回収率は高いように思う。しかし、それでも、土日休みではない人がいるし、持ってこれない人もいる。自分たちで管理・運営しているものだから、行政に言っても駄目。自分たちのことは、自分たちで解決するしかない。そこで、4月からは、助け合いのボランティアで、自宅前に置いておいてくれば、回収する、ということを始めたいと思っている。

委員) 乾ベースと湿ベースを比較しても、生ごみの水分が多いのがよく分かる。清川村で配布している、水切り器はいいと思う。

委員) 厚木市は資源化率が低い、資源化率が高いところのやり方はどう違うのか。一般廃棄物処理基本計画の説明会では、資源化率が高いところは、回収場所が多い旨の説明があった。愛川町のように住民のほうから盛り上がり、それに越したことはないが、一般的にはやはり難しい。厚木市は、可燃ごみの集積所に比べ、資源集積所は4分の1程度しかないという話だ。資源集積所は広いところが必要なので、通常の可燃ごみの場所では狭いために難しいという話は分かるが、曜日で分割するなど、回収方法を含めて考えてみたらどうか。

厚木市) 厚木市の可燃ごみの場所は4500箇所程度、資源は1000箇所程度である。分別のかご等を広げるスペースが必要になるので簡単にはいかない。曜日で分ける方法もあるが、そのたびごとに指導員に出ていただくなど、自治会の協力、負担が大きくなるので、検討中となっている。

委員) 資源化・減量化の話ならば、われわれは言いたいことは色々あるが、時間も限られていることだし、ここで話しても結論は出ない。各市町村ごと、住民、それぞれの立場でも考えるが、それではバラバラになるので、よい方法を取りまとめて、住民に情報提供していただき、われわれももう一度考えたい。

事務局) 今回のご意見も取りまとめて、広報やインターネットのホームページを通じて住民の方々に周知していきたい。また、今後の計画を取りまとめる際に十分に生かしていきたい。

(3) 平成16年度厚木愛甲環境施設組合事業等の進捗状況について【資料2】

資料2により、厚木愛甲環境施設組合事業等の進捗状況について説明した。

【質疑】

委員) 時々会議の議題になっている、エコループ構想について組合としてはどういう見解になっているのか。

事務局) エコループ構想については、すでに新聞等でご存知のことと思うが、山北町で、横浜、川崎を除いた県下の市町村のごみをまとめて処理するという、民間のプロジェクトである。主体である(株)エコループセンターや神奈川県とともに勉強会などを行っているが、事業の実現性、継続性や処理費用のことなどを含め、なかなか判断が難しい状況である。現段階では、当ブロックだけではなく、県下の各市町村ともに判断できず、プロジェクトに乗るかどうかの回答は出来ないのではないかと考えている。そうすると、会社として、事業が成立しない可能性もあ

る。いずれにしても、3月末までに、エコループセンターが、事業についての具体的な案を示すことになっているので、それを待って、分かり次第、担当者の会議からはじめ、最終的には各首長の判断をいただく予定である。

(4) その他

4 閉 会

今年度はこれで終了。次回の会議は、4月を予定している。

以 上